九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

景観にさぐる中世 : 変貌する村の姿と荘園史研究

服部, 英雄
九州大学大学院比較社会文化研究院 : 教授 : 日本史

https://hdl.handle.net/2324/21647

出版情報：1995-12-20. 新人物往来社
バージョン：
権利関係：

景観にさぐる中世
―変貌する村の姿と荘園史研究―

目次

はじめに……1
本書の構成（ガイダンス）……5
第Ⅰ部　みそさく・ようじゃく……25
第一章　周防国仁保庄の荘園地名――現地景観が語る真実と文献史料が語る虚実――……27
はじめに　27
一　平子氏館とその周辺　27
二　三浦文書・手継証文の史料批判　33
まとめ―浅地の養着と重嗣菩提寺長寿寺の立地が意味するもの―　39
第二章　みそさく考……41
はじめに　41
一　上野国　43
1　群馬県邑楽郡大泉町下小泉の御正作
2　群馬県太田市強戸の三惣作
3　群馬県太田市沖之郷の三双作
4　栃木県足利市里矢場の御正作
二　下野国　55
5　栃木県小山市卒島の御正作
三　下総国　58
6　栃木県小山市上粱の味正作
四　常陸国　59
7　茨城県真壁郡関城町船玉のみそさく
8　茨城県常陸太田市幡のミソフ作（ミソフ柵）

9　茨城県常陸太田市瑞竜町小野のミソウ作
10　茨城県水戸市渡里町坏の味噌作（ミゾウサク）
11　茨城県那珂郡大宮町西塩子のミソウ作
12　茨城県那珂郡大宮町下岩瀬の味相作
13　茨城県新治郡出島村牛渡上郷のミソザク
14　茨城県土浦市田村上郷の味惣作
五　甲斐国　74
15　山梨県中巨摩郡敷島町中下条の御証作
むすび―中間報告として―　75
第三章　地名による中世常陸国真壁郡長岡郷一帯の景観復原……78
――みそざくと叶（かのう）――
はじめに　78
一　里の景観　79
1　地名の収集
2　地名の特色
3　長岡の水田
4　下小幡の水田
5　白井の水田
二　溜池の歴史　89
三　堀の内・前田と御正作（みそざく）　91
四　山の景観　93
1　焼畑地名・叶
2　焼畑地名が下々畑として検地帳に記載された意味
3　山の地名―クボ・ホッキリ―

おわりに　97
第四章　遠江国初倉庄の荘園景観の復原――堤防の中のニショウダク――……99
第五章　周防国与田保故地における用作――低地滞水域の開発をめぐって――……104
はじめに　104
一　与田保故地に残る荘園関係地名　105
二　夕作はなぜこの地にあるのか　109
三　滞水地帯の開発―炙川と堀川―　110
四　条里遺構との関連　113
五　地頭支配の展開　114
六　歴史資料としての地名の価値　115
第六章　防長のヨウジャク……117
はじめに　117
一　周防のヨウジャク　118
1　山口県防府市西佐波令・中河原の用着
2　山口県防府市大崎・漆の用尺
3　山口県佐波郡徳地町鯖河内・安養地の用作
4　山口県山口市小鯖・毛割の幼若
5　山口県山口市平川・平井の用作
6　山口県山口市大内・奥小野の用作
7　山口県吉敷郡小郡町小郡上郷奥畑・木船の用尺
8　山口県熊毛郡田布施町宿井・石ノ口の用作
9　山口県熊毛郡平生町大野・中村の用作
10　山口県熊毛郡平生町尾国の用作

二　長門のヨウジャク　138
11　山口県豊浦郡菊川町上保木の用借
12　山口県豊浦郡菊川町下岡枝・茶屋の用借
13　山口県豊浦郡菊川町日新・行政の用作
14　山口県豊浦郡菊川町大字吉賀・防迫の用作
15　山口県豊浦郡豊北町粟野・郷上の用作
16　山口県豊浦郡豊浦町厚母郷の用作
17　山口県厚狭郡山陽町山野井・栗田の用尺
18　山口県厚狭郡楠町舟木・伏付の用作
19　山口県宇部市東須恵・中野の用尺
20　山口県宇部市如意寺・渡瀬の用作
21　山口県阿武郡阿東町生雲東分・持坂西の用着
22　山口県美禰郡秋芳町嘉万・栢木の用作
三　用作田の形態―まとめにかえて―　157

第七章　筑後川下流域・クリーク地帯における荘園景観と淡水灌漑……166
――筑後国三潴庄と肥前国神崎庄――

はじめに　166
一　三潴庄荒木村の中世耕地景観と大井手（非クリーク地帯）　168
1　中世地名と灌漑系統
2　広川流域の用水の歴史
二　三潴町田川の用作　176
三　大木町奥牟田の立野の用作　180
四　城島町楢津諏訪の用作　182
五　佐賀県神埼郡千代田町用作　186

1　中世神崎庄における干潟の新田開発
2　筑後川河口津である神崎庄津・蒲田津と用作
六　クリーク景観はいつ形成されたのか—景観の遡及—　191
1　八院・白垣の現景観
2　揚水器具の発達史
3　アジア各地のデルタ地帯の淡水灌漑
七　中世文書からみた筑後川下流域—松浦山代文書にみる白垣村と網縄池—　200
八　筑後川下流域の中世景観とその形成—むすびにかえて—　204
第II部　地名の史料学……211
はじめに……213
第一章　明治地租改正と小字の決定——北浦定政の業績によせて——……216
第二章　播磨国鵤庄の嘉暦絵図と小地名……225
第三章　近江国邇保庄図にみえる小地名の検討……232
第四章　山城国乙訓郡（小塩庄）条里図による小地名変遷の検討……238
——条里図に対する史料批判——
第五章　乙訓郡条里地域における小地名収集とその史料的価値……245
——あわせて久我庄等の荘園景観を復原する——
一　通称地名（旧小字）の収集　245
二　条里制との関連から　247
三　久我庄故地における景観復原と地名　250
四　その他の乙訓郡域の歴史地名　254

第六章　大和盆地における小地名の変遷……257
第七章　荘園地名のうち、名地名の意味するもの……260
第八章　能登国万行保・奥原保故地における中世の村の復原……264
——消された小字を甦らせる——
一　万行保　265
二　奥原保　268
第九章　肥前国神崎庄故地における条里村落と地名……272
——里界により決定される村——
残された課題……285
第Ⅲ部　荘園景観の遡及的復原法……291
第一章　荘園景観の遡及的復原法……293
はじめに　293
一　現地調査はなぜ必要か—播磨国福井庄樋守・肥後国八代庄井樋を素材として—　294
1　播磨国福井庄の汐浜干拓と樋守
2　肥後国八代庄八千把村における汐浜干拓と井樋
二　荘園景観の遡及的復原法—播磨国大部庄を素材として—　310
1　準備作業
2　近世景観の措定
3　中世的景観の復原
三　集落形態の検討と考古学　325
1　散村から集村へ
2　古文書に記されなかった屋敷—考古学の成果—

四　古道を歩む人々　328

第二章　備後国地毗庄の復原的研究……335

一　地毗庄の山内首藤氏　335

はじめに

1　鎌倉期の山内首藤氏

2　南北朝期の山内一族の動向―貞和七年一族一揆―

二　地毗庄本郷の景観復原　351

1　滑良谷

2　藤木谷ほか

3　高山門田とその周辺

4　大池（おうのゝ池）・別所池ほか

5　田原溝

6　田原土居

7　地頭館と甲山城

8　残された課題

三　質入担保となった備後国地毗庄　383

はじめに

1　研究史とその問題点―文応二年千光寺領目録の疑点―

2　領家方史料について

3　地毗庄荘園領主とその変遷

4　借銭による領主の移動―文書の伝来―

むすび

第三章　安芸国三入庄の復原的研究……404

第四章　伯耆国国延保の復原的研究……416

はじめに　416

一　醍醐寺蓮蔵院領国延保の沿革　416
二　貞和五年下地中分　420
三　貞和二年中分取帳錯簡の修正　421
四　国延保の耕地景観と名の復原　428

第五章　豊前国金田庄故地における中世景観の復原……436

――南北朝期の名の存在形態――

はじめに　436
一　金田庄の沿革　437
1　金田庄の初見史料
2　金田庄の伝領
3　金田庄の正平十一～二年
二　金田村田畠坪付類の整理と復原　439
三　金田村故地における条里制耕地の復原　448
1　中元寺川左岸における条里制
2　彦山川右岸、弁城・迫・宝珠地区における条里制
3　赤池町市津、石松周辺の条里
4　上金田・東金田の条里制
5　金田・宝見・黒尾の条里制
四　金田村における名と耕地　461
ア　四郎丸名
イ　南木久永名
ウ　宮得名
エ　石松名・土内名
オ　久永名

カ　黒王丸名
キ　用王丸名
ク　得松名
ケ　末里名
コ　成松名
サ　正弘名
シ　直方村
小括と残された問題　466
むすび―名と勧農―　468
第六章　肥前国長嶋庄と橘薩摩一族……470
はじめに　470
一　長嶋庄の成立―根本開発領主の群像―　471
1　権門領（前段階）長嶋庄の寄進主体
2　蓮花王院領長嶋庄の成立
二　長嶋庄入部までの橘薩摩氏　481
1　出自
2　御家人橘薩摩公業
三　条里制耕地の復原作業　484
1　坪並の復原
2　条里（里名）の復原
四　花嶋村地頭の所領構成―名と十楽浮田―　498
五　地頭橘薩摩一族による村々の支配　508
1　公員流
2　公助流

3　公義流
六　村立事―長嶋庄における南北朝の動乱―　518
七　文書の伝来―むすびに代えて―　528
残された課題……532
第Ⅳ部　中世城館の研究視角……535
第一章　中世城館論――近世城郭への連続と非連続――……537
一　中世城館の特質　537
二　中世城館の機能　540
A　交通との関係
B　集落との関係
C　中世城館の日常的な支配機能
D　軍事面からの考察
第二章　飛脚籌によせて……569
一　のろしマラソン―飛脚籌―　569
二　近世の「のろし」史料　572
1　萩藩の場合
2　岡山藩の場合
3　長崎周辺の烽火台
4　福岡藩の場合
5　佐賀藩の場合―江戸へ廿四時―
6　天草の場合
7　薩摩藩の場合
8　土佐藩の場合
9　和歌山（紀州）藩の場合

10　弘前藩の場合
11　西蝦夷地の場合
12　琉球王国の場合
三　飛脚旗　588
四　城館と鐘・太鼓　590
むすび　595
成稿の過程……597
あとがき……603

図版作成／佐藤信行